

# メルボルン日本語教会への導き（証し）

福田 真理

私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平和が豊かにありますように。この度メルボルン日本語教会の働きのために、宣教師として導かれていると信じるようになりました。導かれたプロセスを証しとして記します。

## 1. グレースシティの教会開拓

東京基督神学校（現東京基督教大学大学院）を1990年に卒業してから長老教会の牧師として、山の上教会グレースチャペルに18年半、グレースシティチャーチ東京の教会開拓に14年半福音のために仕えてきました。特にリディーマー教会開拓センター（現Redeemer City to City）で都市における福音中心の教会開拓について研修を受けた後、2008年から始めた東京都心における福音中心の教会開拓運動の一つの実であるグレースシティの14年半は、罪深い小さな者を通して恵みの神が大いなることを成し遂げてくださったと心から感謝しています。一つの教会だけではなく、東京にフォーカスするグレース教会開拓ネットワークを通して2020年までに教派を超えた10個の新たな教会が生み出され、日本の主要都市に福音のムーブメントをもたらそうとするCity to City Japanも立ち上げられ、多くの開拓伝道者が訓練されるようになりました。二つの長老教会に仕えてきた30年以上の働きを通して最も学んだのは、キリストの福音こそが心と人生に変革をもたらす、文化や都市さえも新しくする救いの力であるという真理です。福音はやがてすべてのものをつくり変えるのです。

とはいえグレースシティの教会開拓の中で健康の弱さを経験し、6年前には狭心症から来る脳梗塞を発症して言語障害に陥りました。奇跡的に後遺症もなく完全に回復して福音の働きに復帰することができましたが、多くの人を経験したようにコロナ禍に伴うストレスの中で、一昨年2021年10月には一過性脳虚血発作を起こして3か月の休養を余儀なくされました。その頃から家族は私の健康を心配して、ストレスの多い働きから離れることを願うようになりました。

それだけではなく、昨年7月には長男の雄也が急逝したことによる深い悲しみのために、グレースシティの働きを終えることを考えるようになりました。長男は6年前に本当に驚くべき仕方で罪を悔い改め、福音に表されたキリストの恵みを信じて神に立ち返りました。彼は妻に裏切られる難しい結婚生活の中で10年もの間重いうつを患いながらも、「ぼくも宣教がしたいんだよね」と口癖のようにキリストへの愛と礼拝の喜びを言い表していました。彼が亡くなる直前に言い残したのは、自分の家族が壊れた悲しみと私とグレースシティを心配する思いでした。

グレースシティの教会開拓の働きでは健康問題だけではなく、牧会上の労苦や辛いこともたくさん経験しました。ここ数年はコロナ禍とも相まって、私だけではなく家族も教会の問題で多くのストレスに悩まされました。病気や家族の死に直面したことから信頼できる牧師や友人たちにも相談しつつ、長男の急逝による2か月の休職の後に、2023年3月の任期満了をもってグレースシティと東京を離れることを決心しました。

もちろんグレースシティの教会開拓は道半ばですので、後ろ髪を引かれ無責任ではないかとの思いも入り乱れましたが、ちょうど説教シリーズに取り上げたアブラハムの生涯をたどることによって、

恵みの神にすべてをゆだねることを教えられました。彼はすべての民の祝福となるよう召されましたが、彼が生涯に得たのは妻の墓だけであり、ヘブル書 11 章にはこう記されています。

「これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。」(ヘブル書 11 章 13 節)

この地上の働きが中途半端に見えるとしても、神は必ずキリストによって成し遂げた神の国を完成してくださるのですから、グレースシティを離れるとしても神はふさわしい仕方で導いてくださるに違いないとゆだねることができました。

## 2. メルボルン日本語教会へ

コロナ禍のために宣教や牧会が難しくされて多くの苦難を味わっていた 2021 年 9 月ごろ、ふとメルボルン日本語教会のことが思い出されました。それは長く同教会やメルボルンの邦人伝道のために祈ってきたことや、前牧師である柏倉秀吉先生と知り合いで彼が同教会を辞任したことを知っていたからです。インターネットを検索すると、メルボルン日本語教会は無牧で、新しい働き人を祈り求めながら献金を募っていたので、ちょうどボーナスが入った時でしたからささやかな献金をささげ、同教会を管轄しているカンタベリー長老教会の長老とメールのやり取りをしました。

その一月後に一過性脳虚血発作を発症し、家族からはグレースシティの働きを終えてほしいと求められるようになりました。すると 2022 年 1 月に娘幸歩の夫であるスチュアートから連絡が入り、メルボルン日本語教会が牧師を探しているのを、私を同教会を管轄するカンタベリー長老教会のデビッド・ハーン牧師に紹介して良いかという問い合わせでした。スチュアートはグレースシティの教会員でシドニーにあるモーア神学校の最終学年でしたので、メルボルン日本語教会に誘われたのでした。しかし、彼は卒業後にゴールドコーストで 2 年間の大学生伝道をした後、宣教師訓練を受けて日本に来ることを計画していますので、自分の代わりに私をデビッド牧師に紹介したのです。その後何度かメールのやり取りをして、2022 年 4 月に初めてデビッド牧師や長老たちとオンラインでお会いしました。引き続き連絡を取り合うことを約束しましたが、この時点ではグレースシティの退任後メルボルンに行くことについてはまだ何も決まっていませんでした。

しかし、先に書いたように 2022 年 7 月に長男が急逝したことにより、グレースシティを退職してメルボルンに行くことを真剣に考えるようになりました。2022 年 9～10 月の 2 か月間はミニストリーを完全に休んで娘家族のいるシドニーで 6 週間を過ごしましたが、その間 3 泊 4 日でメルボルンを訪問しました (10/10-13)。滞在先である花園匡長老夫妻とは上記の事柄について胸襟を開いて正直に話し合い、デビッド牧師夫妻やカンタベリー長老教会の長老たちともお会いして交わりを持ち、私ども夫婦が非常に傷んでいる状態で休息を必要としていることを理解してくれた上で、メルボルン日本語教会に来てほしいと懇願されました。

シドニーで休息する間、娘たちが出席奉仕している教会の礼拝で、スチュアートが神学校を卒業して 2023 年 2 月から大学生伝道に 2 年間取り組み、その後宣教師となる訓練を受けて日本に来る計画について、ファンドレイズを兼ねて発表しました。その時彼が日本の現状、クリスチャン人口 0.5%、毎年 0.4%の割合でクリスチャンが減少、牧師の平均年齢は 65 歳以上、多くの方々が将来に希望を持たずにうつや虚無感に苛まれているという現状を聞いて、本当に悲しくなるとともに、やはりこれか

らもこの者を宣教のために用いていただきたいと思われました。

オーストラリアから帰国してすぐに、ちょうど来日していた東京基督教大学初代学長の丸山忠孝先生に11月3日にお会いしました。先生は私たちの結婚の時のメンターで今はシアトルに住んでいます。先生は私どもの長男の急逝、教会の問題、今後の働きなどの重い課題について時間をかけて聞いてくださり、グレースシティを辞めることを理解してくださるだけでなく、ご自身の経験からすぐに働きを始めるのではなく休息をとることを勧めてくれました。その後のメールのやり取りで、「主の導きがいずこにあるにしろ、その主が召された牧師であることを堅持して進まれますよう祈念しております」との言葉に励まされ、メルボルンへの扉が開かれつつあると思うようになりました。

### 3. メルボルンとのつながり

実はメルボルンとのつながりは1995年ごろにまでさかのぼります。日本語教会を開拓したスティーブ・ヤング先生が一時的にアメリカに帰国される時、半年～1年間日本長老教会から働き人を派遣してほしいという要請がなされました。山の上教会の中山弘正長老はテネシー明治学院を視察した際にノックスビルの日本語教会を訪れましたが、無牧だった同教会の労苦を垣間見て帰国し、メルボルン日本語教会に私を派遣することを小会に提案し承認されました。そのことは山の上教会の会衆に知らされ、家族にも伝えて渡豪する準備を始めましたが、海外宣教委員会と長老と共に面談すると、同委員会では今回の派遣のための経済的な準備は皆無であり、必要なお金は自分たちでファンドレイズするなりして準備するようにとのことでした。山の上教会の小会はこれを受けて、十分な経済的な裏付けのない中で、3人の子どもを育てる若い（当時31歳）家族の派遣は無謀だとして、メルボルン行きは取りやめとなりました。それ以来メルボルン日本語教会は私の祈りのリストに入りました。

グレースシティを開拓すると、しばしばメルボルン日本語教会に関係する方々が東京に送られてきました。マーカスは日本に宣教師として来ることを夢見ていた神学生で、2か月間グレースシティでインターンをし、その後カンタベリー長老教会の長老となり、今は按手を受けてメルボルンの教会の牧師となりました。ジェーンはOMFの宣教師として来日し日本OMFのオフィスで働きながら、グレースシティを日本の母教会として奉仕してくれました。今はメルボルンのOMFで働いています。またある方はワーキングホリデーでメルボルンに行って日本語教会につながり、今はグレースシティのメンバーです。

都市における教会開拓の特徴の一つは、人種や民族、国や言語の異なる国際的なつながりです。グレースシティには絶えず多国籍、他民族、多文化が入り乱れ、モザイク状のコミュニティが形成されてきました。しかも日本を離れて外国の異文化環境においてクリスチャンになったり、信仰に至らぬとしても福音を聞いたことのある国際的な人々がたくさん集いました。この経験は、海外邦人伝道の重要性を再認識させてくれました。メルボルンでも同じように日本から来た人たちが福音を聞くチャンスを得ることでしょう。

これは余談と言ってもいいのですが、私がまだ12歳の小学生だったころ、宣教師としてオーストラリアに行くことを夢見たことがありました。幼い時からお世話になっていた今市キリスト教会の関根辰雄牧師（当時）のご子息である関根一夫先生が南オーストラリアのアデレードにある神学校を卒業して帰国した際に、そこで学び経験したことを分かち合う報告会が開かれ、私は母に連れられて参加しました。初めて見聞きするオーストラリアに将来の夢を抱き、宣教師としてかの地に行こうと思いつき、小学校の卒業文集には「将来の夢は宣教師としてオーストラリアに行くこと」と書きました。その時から福音のために働くというおぼろげな思

いが心に刻まれました。

長男雄也の急逝以来、彼の命名のみことばを事あるごとに思い起こしながら、自分たちの行くべきところはどこなのかと祈ってきました。

「わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。

あなたが行くところどこでも、あなたの神、主があなたとともにおられるのだから。」(ヨシュア記1章9節)

この年齢になって海外に宣教師となっていくことに不安がないわけではありません。しかし、海外でクリスチャンになったり、信仰を持つに至らなくても福音を聞いて帰国する方がたくさん集う姿を見てきました。メルボルンに滞在している方々に福音を伝えることができるなら、ささやかであれ御国の宣教と神の栄光のために仕えることができるのではないかと思うようになったのです。

(2023年4月記)

## Testimony for the Japanese Church of Melbourne

Makoto Fukuda

May grace and peace abound with you from God our Father and the Lord Jesus Christ. I have come to believe that I am being led as a missionary for the work of the Japanese Church of Melbourne. The following is my testimony about the process which led me to this point.

### 1. Church Planting

Since graduating from Tokyo Christian Theological Seminary (now Tokyo Christian University Graduate School) in 1990, I have served the gospel as a Presbyterian pastor for 18.5 years at Yamanoue Church Grace Chapel and 14.5 years in church planting at Grace City Church Tokyo. I am especially grateful for my 14.5 years at Grace City, one fruit of the gospel-centered church-planting movement in central Tokyo, which I started in 2008 after receiving training in urban gospel-centered church-planting at the Redeemer Church Planting Center (now Redeemer City to City), where the God of grace has done great things through a little sinful man. Not just one church, but ten new interdenominational churches had been planted by 2020 through the Tokyo-focused Grace Church Planting Network. City to City Japan was then launched to bring the gospel movement to other major cities in Japan, training many church planters. What I learned most through more than 30 years of ministry serving two Presbyterian churches is that the gospel of Christ is the saving power that transforms hearts and lives, and renews cultures and cities. The gospel will eventually remake everything.

In the course of planting Grace City, I experienced health problems. Six years ago, I suffered a stroke from angina pectoris, which left my speech impaired. Miraculously, I was able to fully recover and return to the work of the gospel without any effects. But under the stress associated with COVID-19, I suffered a transient ischaemic attack in October 2021, which forced me to take a three-month leave of absence. From then on, my family became concerned about my health and urged me to leave my stressful work.

Not only that, but the deep grief caused by the sudden death of my eldest son, Yuya, in July of last year, led me to consider ending my work at Grace City. My eldest son repented of his sins in a truly remarkable way six years ago and turned to God, believing in the grace of Christ expressed in the gospel. He had suffered severe depression for ten years in a difficult marriage betrayed by his wife, but he was always saying, "I want to do missions too," expressing his love for Christ and the joy of worship. Shortly before he passed away, he shared with me the sadness of his own broken family and his concern for me and Grace City.

In my church planting work in Grace City, I experienced not only health problems but also a lot of pastoral toil and hardship. In the last few years, coupled with the COVID-19 disaster, not only I but also my family suffered a lot of stress due to church issues. After a two-month leave of absence due to the sudden death of my eldest son, I decided to leave Grace City and Tokyo at the end of my term in March 2023, while also consulting trusted pastors and friends as I faced illness and death in the family.

Of course, the church planting in Grace City is still on its way, and I had mixed feelings of regret and irresponsibility. But by tracing the life of Abraham, which I had just featured in a sermon series, I was taught to surrender everything to the God of grace. He was called to be a blessing to all his people, but all he got in his lifetime was the grave of his wife, as Hebrews 11 states.

"All these people were still living by faith when they died. They did not receive the things promised; they only saw them and welcomed them from a distance, admitting that they were foreigners and strangers on earth. " (Hebrews 11:13)

Even though our earthly ministry may seem half-hearted, we could entrust that God would surely complete the Kingdom of God accomplished through Christ, and that He would guide Grace City in a fitting way even as we left her.

## 2. To the Japanese Church of Melbourne

Around September 2021, when I was going through a lot of hardship due to the COVID-19 disaster, which made mission and pastoral work difficult, I suddenly remembered the Japanese Church in Melbourne. This was because I had prayed for the church and the Japanese mission in Melbourne for a long time, and I knew the former pastor Hideyoshi Kashiwagura, and knew that he had resigned from the church. I searched the internet and found that the Melbourne Japanese Church was pastorless and was asking for donations while praying for new workers, so I gave a small donation when I had just received my bonus, and exchanged emails with an elder of Canterbury Presbyterian Church, which has jurisdiction over the church.

A month later, I developed a transient ischaemic attack and my family asked me to finish my ministry at Grace City. Then, in January 2022, Stuart, the husband of my daughter Yukiho, contacted me and asked if he could refer me to Pastor David Hann of the Canterbury Presbyterian Church, which serves the Melbourne Japanese Church, as they were looking for a pastor. Stuart was a member of Grace City and in his final year at Moore Theological College in Sydney, so he was invited to join the Melbourne Japanese Church. However, he was planning to do two years of university student evangelism in Gold Coast after

graduation and then come to Japan after missionary training, so he introduced me to Pastor David in his place. We exchanged several emails after that, and in April 2022 I met Pastor David and the elders online for the first time. We promised to stay in touch, but at that point nothing had been decided about going to Melbourne after my retirement from Grace City.

However, as noted earlier, the sudden death of my eldest son in July 2022 led me to seriously consider retiring from Grace City and going to Melbourne, and I took a complete break from ministry for two months September through October and spent six weeks in Sydney with my daughter and family. In that time, we spent four days and three nights in Melbourne (October 10-13). We had an open and honest discussion about the above matters with Elder and Mrs. Hanazono Tadashi and met and fellowshiped with Pastor and Mrs. David and the elders of the Canterbury Presbyterian Church, who understood that my wife and I were in a very hurt state and needed rest, and they invited us to come to the Melbourne Japanese Church.

While we rested in Sydney, Stuart gave a fundraising presentation at a church service attended by our daughters about his plans to graduate from seminary and begin a two-year university student mission in February 2023, after which he would train to become a missionary and come to Japan. At that time, he told us about the current situation in Japan: the Christian population is 0.5%, the number of Christians is decreasing at a rate of 0.4% every year, the average age of pastors is over 65, and many people are suffering from depression and a sense of emptiness without hope for the future. I was sad and reminded of the need to continue to use us for missionary work.

On November 3, soon after returning from Australia, we met Dr. Tadataka Maruyama, the first president of Tokyo Christian University, who had just arrived in Japan. He was a mentor in our marriage and now lives in Seattle. He took the time to listen to us about the heavy issues we were facing, such as the sudden death of our eldest son, church problems, and future ministry. He not only agreed with our decision to leave Grace City, but also recommended that we take a break instead of starting ministry immediately, based on his own experience. In a subsequent email exchange, I was encouraged by his words, "I pray that wherever the Lord leads you, you will continue to be the pastor he has called you to be," and I began to believe that the door to Melbourne was opening.

### 3. Melbourne Connections

In fact, the connection with Melbourne goes back to around 1995. When Rev. Stephen Young, who planted the Japanese language church temporarily returned to the USA, a request was made to send workers from the Presbyterian Church in Japan for six months to a year. Elder Hiromasa Nakayama of Yamanoue Church visited the Japanese Language Church in Knoxville when he visited Tennessee Meiji Gakuin School, and after glimpsing the hardships of the pastorless church, he returned home and proposed sending me to Melbourne Japanese Church, which was approved. The congregation of Yamanoue Church was informed of this, and I informed my family and started preparing to go to Australia, but when I met with the Overseas Mission Committee and the elders, they told me that the committee had made no financial preparations for this mission and that we should prepare the necessary

money ourselves by fundraising or otherwise. In response, the Yamanoue Church session decided to cancel the trip to Melbourne on the grounds that it would be reckless to send a young (then 31 years old) family raising three children without sufficient financial backing. Since then the Melbourne Japanese Church has been on my prayer list.

When we planted Grace City, people associated with the Melbourne Japanese Church often were sent to Tokyo. Marcus was a seminary student who dreamed of coming to Japan as a missionary, interned at Grace City for two months, then became an elder at Canterbury Presbyterian Church and is now a pastor of a church in Melbourne after receiving the laying on of hands. Jane came to Japan as an OMF missionary and worked in the Japan OMF office, and served Grace City as her church in Japan. She is now working for OMF in Melbourne. Another went to Melbourne on a working holiday and connected with a Japanese language church and is now a member of Grace City.

One of the distinctive features of church planting in the city is the international links between different races, ethnicities, countries, and languages. Grace City has always been a mosaic of multi-national, multi-ethnic, and multi-cultural communities. Moreover, many people have left Japan and become Christians in foreign cross-cultural environments, or have heard the gospel even if they have not come to faith. This experience reminded me of the importance of evangelizing Japanese overseas. In Melbourne, people from Japan will have a similar chance to hear the gospel.

This is a bit of an aside, but when I was still a 12-year-old primary school student, I dreamed of going to Australia as a missionary. When Pastor Kazuo Sekine, the son of Pastor Tatsuo Sekine of Imaichi Christ Church (at the time) who had been my pastor since I was a child, graduated from seminary in Adelaide, South Australia and returned to Japan, a debriefing session was held to share what he had learned and experienced there, and my mother took me to attend. I saw and heard about Australia for the first time and had a dream of going there as a missionary, so I wrote in my primary school graduation book that my future dream was to go to Australia as a missionary. From that moment on, the vague idea of working for the gospel was engraved in my mind.

Since the sudden death of my eldest son Yuya, I have reminded myself of his naming words at every opportunity and prayed about where we should go.

“Have I not commanded you? Be strong and courageous. Do not be afraid; do not be discouraged, for the Lord your God will be with you wherever you go.” (Joshua 1:9)

It is not that I am not anxious about becoming a missionary abroad at my age. However, I have seen many people become Christians overseas or return home after hearing the gospel, even if they did not come to faith. I have come to think that if I can share the gospel with those who are staying in Melbourne, even in a small way, I can serve the mission of the Kingdom and the glory of God.

(April 2023)